

レズリー・メイボン先生による

CCS(二酸化炭素の回収・貯留)の 社会的受容性に関する特別講演会

(参加費無料・自由参加)

司会・進行：苫小牧駒澤大学学長 川島 和浩

北海道苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業に対し、地域ではどのような社会的受容がなされているか、現時点における状況を紹介します。特に、2014年から2018年にかけて苫小牧地域において実施した社会学的な調査と、その結果を踏まえて報告します。

- 日時：平成30年1月23日(火) 13:00～14:30 (開場12:30)
- 場所：苫小牧駒澤大学 研究・講義棟1階 C103教場
- 主催：苫小牧駒澤大学
- 後援：苫小牧CCS促進協議会
- 講演者：レズリー・メイボン博士/准教授(英国ロバート・ゴードン大学)
- 演題：

「苫小牧におけるCCS大規模実証試験事業の社会的受容性(PA)について」



【プロフィール(本人のブログblogより <https://energyvalues.wordpress.com/about/>)】

私の名前は、レズリー・メイボン(Leslie Mabon)と言い、英国スコットランドのアバディーンにあるロバート・ゴードン大学(RGU)の社会学部で准教授(上級講師/研究指導)をしています。私は2014年3月からアバディーンに赴任しており、それ以前は、エジンバラ大学で助教をしていました。私の研究対象は、エネルギーと環境の変化に伴う社会的次元(価値感)にあり、気候変動に対する緩和策と適応策において倫理的に「明瞭」にならない部分に特に興味・関心を持っています。

【研究業績(本人のブログより<https://energyvalues.wordpress.com/publicationsoutputs/>)】

Leslie Mabon, Jun Kita, Ziqiu Xue (2017) 「沿岸地域における社会的影響評価の課題—苫小牧CCS実証試験事業にみる事例研究—」 (“Challenges for social impact assessment in coastal regions: A case study of the Tomakomai CCS Demonstration Project”) *Marine Policy* 83: pp.243–251. など多数。



【お問い合わせ先】 苫小牧駒澤大学 教育サポートセンター
〒059-1292 苫小牧市錦岡521番地293 Tel 0144-61-3124
※ 大学食堂は11:30～13:30で営業し、学生以外でも利用できます。